



門 儿 呂 4
番 / 606
卷



洛陽名取集卷之六目錄

宇治里
 橋小鴻崎
 興聖寺
 換馬 約月
 石清水 疫神
 男塚女塚
 根桑
 玉井
 久遠都
 宇治川
 子等院
 難宮八幡
 巨椋
 放生川
 狛山 野邊
 鯉魚
 玉門
 美置堂
 橋水
 觀音堂
 約發
 宇治山
 狹橋河
 八幡山 楠木
 蟹満寺
 女社
 泉川
 欽父瀨
 惠心院
 朝田山
 八幡
 男山
 本津川
 井子
 滋養堂





宇治

○此所洛城（洛陽）より三里餘（カサリ）たつるなり

徴同（カサリ）かひくもささ茶茗（カサリ）れ名亦（カサリ）く園（カサリ）

をくく（カサリ）灌栽（カサリ）一（カサリ）續渡（カサリ）さくく（カサリ）たふ（カサリ）ゆ（カサリ）り

若くは（カサリ）さくく（カサリ）

誠（カサリ）に茶茗（カサリ）なるものゆからんと支那（カサリ）漢（カサリ）の

圃（カサリ）いげとも實（カサリ）祀（カサリ）益（カサリ）亭（カサリ）く市（カサリ）辭（カサリ）せり志（カサリ）か

い（カサリ）と（カサリ）か（カサリ）つ（カサリ）め（カサリ）る（カサリ）も（カサリ）茶（カサリ）の（カサリ）方（カサリ）乃（カサリ）茶（カサリ）木（カサリ）あり

櫃（カサリ）護（カサリ）茗（カサリ）芥（カサリ）の（カサリ）四（カサリ）種（カサリ）有（カサリ）神（カサリ）農（カサリ）の（カサリ）食（カサリ）徑（カサリ）力（カサリ）を

く（カサリ）へ（カサリ）く（カサリ）ら（カサリ）び（カサリ）く（カサリ）も（カサリ）ら（カサリ）く（カサリ）こ（カサリ）び（カサリ）く（カサリ）も（カサリ）か（カサリ）り

野（カサリ）を（カサリ）ら（カサリ）も（カサリ）せ（カサリ）る（カサリ）べ（カサリ）り（カサリ）り（カサリ）。止（カサリ）は（カサリ）古（カサリ）より

伐後魏乃琅琊王麟祿の世祖氏帝に
りし章曜孫皓の宴よハ酒に人劉琨は
景のいもやうに記しども陸羽盧仝がしるも
がらおほくは清少納言のしるす。ほほを
はくくつ。茗人の口に識しぬ。さうもさうも
皮日休の茶中雜詠序。劉禹錫が試する歌
張又新の煎茶水記。歐陽修の天暇水記。徐巖
泉の六安列茶居士傳。王禹偁の茶井詩。李南
星羅大經の茶瓶湯侯詩。蔡君謨の備錄造
試四首乃茶詩。吳淑の茶賦。范希文の團茶
歌。啓る西の同説。蘊る膳の煎茶歌。黃魯
直の同賦。はくつ。劔南の蒙廩石花湖外
顧渚紫笋峽列茶名。碧間明月やうぐさ。或ハ
霍山鳳凰のくさうぐさ。黔中の恩播費夷江
南の鄂表吉嶺。亦乃福建韶象のナ一列
の茶。うぐさ。雪腴雲脚細珠。素濤のうぐさ
へまれ。うぐさ。乃。器具のいゆり。也。唐德宗
乃。うぐさ。秘茶のうぐさ。誹評のうぐさ
乃。うぐさ。碾磴のうぐさ。び。挽轉のうぐさ
乃。うぐさ。のうぐさ。うぐさ。比。薩摩のく。建長
寺僧文之。黒齋を人に。うぐさ。書。化。うぐさ
南浦文系に。うぐさ。うぐさ。うぐさ。うぐさ。

ちりり

宇治川 橋

○け川巽らと乾へいりや
人丸奇に武士乃八たら川の細成木
小いざりよ波のりくくを寂蓮を
に暮くひまをさかひに
しにけけらら乃柴舟

○宇治橋 宇治乃里の良よまご大橋の

一や

山崎大液

近江勢多

宇治をえや

秋乃悲性に傷一百八十九不我管

乞をけ人のいめく化

秦昭王初作橋始皇次作石橋萬歳之要往来之
通今又古々猶今韓愈之方橋非閣船可居過菴
之竹橋白鶴天青電水整董平深高翠裴航遇
仙女非藍橋耶清粧懶情取迷身鄭榮起詩
思非灞橋耶近來送去且銷魂裏喜隆房
袖中坐月定家々席上駱駝橋在湖列府虹
蜺橋入介甫吟蘓子瞻新西東惠列橋子柱
邵康即同杜鰲天津橋之一興和什漢格是實
書別看易地奇隨處知正与

橋姬

○只社ハ橋乃西のしめや
姫乃大神ハ宇治玉姫と云。離宮神。お橋
姫にかうくふ河。あまの姫に波小若々うり
しと。又一説に。佳吉羽神。宇治乃橋お神
少。あまのしめや

定家郷云に。さむらやまの秋れ
風あけく月あうり。あまの姫
意圓子ふ。河成本に。いさ。あまの姫
た。く。おや。お。あ。ら。乃。橋。姫

さう。お。冠者。義伸上。あ。お。交。送
のん。く。右。兵。法。作。頼。朝。ける。さ。は。

め。お。ん。そ。く。蒲。冠。者。九。郎。判。官。と。ち。将。と
し。は。う。り。終。つ。に。梶。原。源。太。景。季。十。九。依
く。木。四。郎。高。綱。七。の。く。け。川。成。わ。く。け。り。と
り。く。く。く。幸。家。物。語。に。さ。を。さ。り
誠。に。兵。家。よ。ま。ま。い。ん。ん。い。ま。ま。を。に
ゆ。ま。び。ん。乃。乃。乃。乃。の。さ。い。い。ん。と
も。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く
た。く。く。め。ん。く。く。く。の。ま。く。く。く。く。く。く
く。く。く。た。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く
い。く。く。く。く。く。景。季。の。綱。い。ま。ま。の。さ。く。く。く
よ。ま。く。く。く。く。く。功名。と。く。く。く。の。さ。く。く。く。

り来らるゝ也
笑より小徳の心徳と云ふらるゝ也
一に... 光俊... 也

平等院

○は寺ハ宇治橋より二三町をて川上

うへにありし。

永義六年春三月大徳和藤云頼朝宇治の別業を... 平等院... 也

その... 十月帝... 頼朝... 也

忠波法師け院... 頼朝... 也

三々いひ... 頼朝... 也

治承四年に源三位頼政高倉宮... 也

てゆけつと謀及と企くけ院に... 也

せ給ひは... 相國... 也

の... 依又太郎忠綱... 也

改と... 事... 也

宮ハ... の... 害... 也

ぞ平家物語... 也

朝日さびるりしつづきのそのまゝにこがれ
千あうつかしむるむい けさう平等院の棟
木はつき付まゝなり。きしけは破れよ及
いなむ造物もぐしとや。雨乃者みるむ
うつさやいつかたもあはれやしむるこ
かつかつし

○観音堂

平等院乃門よ入くらり

○扇芝

観音堂乃あななり徳之位頼政

○自室

自室一ころやうらむらげもるる

のしきもく。芝のしき。二之間四方をいへ
の上に一なりぬる

○釣殿

はまかたうら厳子陵が釣其を乃しとひ出

たり。載復古の詩に。三公不換此江山范希文の

祠堂記乃し。雲山蒼君。江水決。先生之

風山高水長。王秋江詩。衣衣争似一絲輕。成

齋堂ハ後漢明帝乃二十八將圖乃し。載

みくはやし。心ら魚らし。成る物と

はつを夾谷の壽ハ極ぬ。あ字の鏡とこひ

又本人乃詩に渠知天子是何官。わし

し。とく。とみ。

慧心院

○け院を興聖寺の川下也

漁信姓ハ下部氏の何ゾ。和列葛木郡を

人父の名を正親母ハ清原氏也。や父母

より。郡乃高尾寺よいのりて。儲けり

少かり。信ハさめり。本相のきよ

る尾さち蔵中。大小明暗乃境ありと

一人の沙門暗小る。境をわす人横川に

つらして。みるにたせよと。つらら。おら

紀。おえけり。とく。ら。く。睿山乃慈慧法師

にけり。人。ご。め。く。ま。の。こ。ら。お。わ。せ

いふく。信。が。一。願。密。乃。教。り。く。こ。し。め。

一乘要訣。往生要集。向弥陀經疏。大乘對俱

舍抄。目明相違注。わ。ど。著述。一。慧心院乃

僧都。さ。る。ら。し。大唐南湖知礼法師。回書に

う。け。つ。ら。く。ま。ご。法師。さ。め。に。感歎。一。答

辨。け。く。ま。よ。て。過。一。事。ゆ。ご。寛仁元年六月

十日。門。さ。ま。と。集。多。き。あ。も。て。死。期。お。つ。た

ま。義。の。中。う。ご。り。一。さ。い。だ。つ。ご。ご。ご。ご

こ。て。決。定。し。ま。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご

上。定。慶。祐。一。人。ご。ご。あ。て。二。重。子。乃。逆。接。り

ゆ。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご

とくしるるものほよ布衣はしむる
藤宴並くしに隈もむらたむら
のらくく布衣さくせはまらさく
○釣月菴 月よほくくはくく
貞和集よ。飯中釣月このまら
おふくくくくく

巨椋

くはくは伏見より。二里南のくく
古まのに。巨椋入江をくく射田人の
伏見の回すまらわくく けくく

巨椋の流よあくくくくくく
くくくくくくくくくく

狭穂河 決田のくく

○けくは伏見のくくくく
けくはくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく





八幡

○げふは海邊より。カ、里ゆ方や。里村あり。
 八幡ハ。答言回る皇女なり

答言天皇皇足仲天^ウ皇の第四の子也。母ハ氣
 長^キ足^ツ姫^{ヒメ}也。天^ウ皇ハ皇^ミ后^{ミコト}乃^ハ新^ニ羅^ロと討^ウ討^ウす
 多^タク^クの^ノあ^ハし二月筑紫の蚊^カ回^ヘ生^ハへつ。い^ハけ
 なる。皇^ミ太^タ后^コ政^シがさめりあふる。さ^ハめ^ハり^ハて^ハま^ハり^ハを
 皇^ミ太^タ子^シとせつ。時^{トキ}年^{トシ} 日本紀第十にくハ
 應^{オウ}神^シ天^ウ皇^ミ名^ナ答^コ言^{コト}回^ヘ天^ウ皇^ミ又^{マタ}胎^タ中^{チウ}天^ウ命^{ミコト}と号^ナ
 大^オ和^ワの^ノ輕^カ乃^ハ鳴^ナ豐^{トヨ}明^{メイ}宮^{ミヤ}に^ニ居^イる^ルと^トい^ハふ^ハり

博士百濟より一徳史はけしつゝ太ふ下
於のくたなびもるるべしとてそをいぬ経
乃ていふるなり

又元正天皇養老四年九月異國よりいふ
あり日向大隅の國大よるるに朝廷宇
佐神宮よりのつと寇賊にいづげは大神の
託よけたりし死傷は母一死年冠乃のり
諸國よ放生はありしなり。八幡教を令
これよりしし

○紋堂入念をきたり

最勝王は長者子流水品に
池魚の目に入りし事あり

天降乎此故又八幡植松而為標之
猶在

石清水

○は社ハ八幡社の下の事也

清和帝を以て宇行教とて其を姓ハ紀氏内宿
禰の後也。しり武内宿禰景行帝の周長と
成縁天皇の時大にとらり。又仲哀神功徳神
仁徳よつらり。輔佐よ移せしむるなり。その
いふ。行教を宇作神宮にすまはる。春日
神教よ遷して。帝都の邊よりけしんたる
けり。その國男心よ延至し。清和帝

も大おのしき事なめま少用捨よらるは
乃まれぐくあらんべいしや。妖僧よまられ
おろくくハ。圖曲しそらうらうらやらり。
都息子物教教増

八幡心

後鳥羽院の誓。八幡心は神よその内
よはるおけいとねせうぬく。後久我前大改大
ままのに。なまこころの。冬に越えそらそ
そららあまの。嬉しさに。漁家長朝長らよ。
八幡心神やきうらんそらの杖をくさるる
の

楠木

楠正成祈願

我けらとや

社ハ武田兵家に信仰。勢猛利威治あり
ゆらみくをうけいしそらそら。楠正成ハ潜
謀密運よあうく。まらに勝とそら。多くハ
大感動はあうい。文武は力おまきく。世を
於そそをうけいしそらそら。誠はゆしき士
あうくそゆら。ぬ奉時正成。戦勝軍利とら
は。楠木あがハ八幡心まらうら。あまら枯
折しけしそら。まら。数百樹見らそら。そ
肉け一があうら。大後し。名らうらり記。

魁色

○はあゝゝの森うつゝもあ
中納言家持之のに月けとくわうのれあ
いほりばは着せんきしん
てしにみつの糸くもの秋乃心く
すうのやまきさかしくあさ

衣手録

○羽輔之の秋に誰の海くんに
くは乃衣まのあ。又為氏さぐれもて
とくく秋の唐あしきまのあさ衣
の社にどもあきれぐんあ

井手

○はあやまのりられ
魚頭之のま海くあぐ乃川波さうり
みくくそあめ心吹のむさうく又小野山
まのにまあそあさうくさあむけくあ
あのをわさうの心吹のた

玉井

○はあやまのりられ
建時之の海くさく手ま城あきあみあ
乃水見松の下海又解時之のまあのみさう
とんりあああの花を宿れうさあ

玉川

○いよゝのぬのてい

後鳥羽院御書玉川の雲の心次

みくくつらりるるに煙けくぬるま

後藏三つに教らつてもおでの玉川登壇

八つにやんきふふきの花とくあつる

かきこ強に多母一かたあまううう紫

瓊黄瑛やうんあーせんかくちうう

泉川

○いよゝまづら川のてい

人丸まのい熱出くううううう泉川

何れさむいあうせふ又後藏

乃所後まいげら川百代あーけら

くふ定家と雲何すむこのおのぬ

をらううう人乃若くゆらう

總喜魚

○いよゝまづら川のてい

侯吉うま川家歌と名なれは

秋多のい今うううあううう

誰まにけくさ乃余れ夕夜燈

いりううううううううう

心儀乃けくうううううう

うつく宮よりうたり杖笠杖階のまじりたにお
かまな^あは^はのふり^り。胸^た知^ちは^はう^うら^らに^にく^く。
麻^あ呂^ろ乃^のち^ちら^らび^びど^どん^んき^きり^りが^がま^まり^りの^のら^ら。
た^たま^まの^の何^なま^まう^うが^がま^まり^りの^のら^ら。
し^しん^んの^の足^あが^がつ^つと^と強^か作^さま^まに^にり^りと^とさ^さ。
冬^{ふゆ}を^をま^まは^はし^しつ^つり^りに^にあ^あま^まら^らし^しま^まら^らし^しる^る。
は^はら^らし^しを^をし^しる^るに^にあ^あま^まら^らし^しる^る。

あまのこころを
あまのこころを
あまのこころを
あまのこころを
あまのこころを

